

もりやま総合心療病院

認知症センターだより

令和8年8月（No.5）

発行／もりやま総合心療病院

認知症疾患医療センター

TEL ☎ 052-795-3560

当センターでは、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、認知症に関する相談や診療を行っています。その一環として、令和7年4月からこのおたよりを発行しています。認知症に関する情報や支援についてわかりやすくお伝えしていければと思っています。気になることがありましたらお気軽にご相談ください。

認知症の症状について

前号では“これって認知症？”というタイトルで認知症と加齢によるもの忘れの違いについてお伝えしました。今回は認知症の症状について、代表的なものをいくつかご紹介していきたいと思います。

認知症の症状には、脳の働きの変化によって起こる「認知機能障害」（以前は「中核症状」と言われていましたが、最近では「認知機能障害」という言葉が一般的になりつつあります）と、その影響によって現れる「行動・心理症状（BPSD）」があります。まずは認知機能障害の中でも代表的な4つの症状についてお話ししていきます。

認知機能障害

記憶障害

- ✓ 数分前、数時間前のことを忘れる
- ✓ 同じことを何度も聞く
- ✓ 買い物へ行って、同じものを何個も買う
- ✓ いつもと違う場所に置くと、置いた場所を思い出すことができない
- ✓ 約束を忘れてしまう



実行機能障害

- ✓ 料理の手順がわからなくなり、行動が止まってしまう
- ✓ 電子レンジや洗濯機など、使い慣れた家電の操作に戸惑う
- ✓ 買い物で必要なものを考えて選ぶことが難しくなる
- ✓ 入浴の仕方がよくわからなくなる（入浴を面倒くさがるようになる）
- ✓ ATMが使えなくなる
- ✓ 家計管理や公共料金の支払いが難しくなる



※実行機能障害：「計画を立てる」「順番を考える」「段取りよく進める」ことが難しくなる症状

見当識障害

- ✓ 日付や曜日がわからないため、決められた曜日のゴミ出しが難しくなる
- ✓ 慣れた場所でも迷う
- ✓ 季節が分からず、季節感のない服を着ている
- ✓ 出来事の前後関係がわからなくなる

※見当識障害：今日の日付や今いる場所、季節などがわからなくなり、時間や場所の感覚があいまいになる症状



理解力・判断力の低下

- ✓ 複雑な手続きが難しくなる
- ✓ 詐欺被害に遭いやすくなる
- ✓ 必要のない買い物をしてしまうことがある
- ✓ お金の管理や契約など、大切な判断が難しくなる
- ✓ 体調が悪くても受診の必要性を判断しにくくなる



認知機能障害は、程度の差はあっても、認知症の方どなたにも出現します。しかし認知症だからと言って突然上記のすべての機能が失われるわけではありません。ご本人が難しくなっている部分を補うことが大切です。



行動・心理症状（BPSD）

BPSDは突然現れるのではなく、認知機能障害によって生じる不安や混乱が背景となって現れることがあります。そのため、認知機能障害は認知症の方どなたにも見られる症状ですが、行動・心理症状は全ての認知症の方に見られるわけではありません。ご本人が過ごす環境やご家族、介護者の接し方などで、軽減したり強く現れたりすることがあります。

以下に、いくつかBPSDの種類と行動の例を挙げます。

不安



「家に帰らなければ」
「家族がいなくなった」
「大事なものがなくなった」などと落ち着かなくなる

もの盗られ妄想

財布や通帳が見つからず、「誰かに盗まれた」と思い込んでしまう



ひとり歩き（徘徊）

目的があって外出したものの、何をしに出掛けたのか忘れてしまい、更に帰り道がわからなくなってしまう。

興奮・怒りっぽさ

- ✓ ささいなことで怒ったり、大きな声を出したりする
- ✓ 急に家族に対して手が出るようになる

睡眠のリズムの乱れ



- ✓ 昼夜が逆転し、夜中に起きて活動する
- ✓ 昼間にすぐに寝てしまう

意欲の低下

- ✓ 趣味や外出への関心がなくなり、何もしたがいなくなる

対応のヒント



◎否定せず、まず気持ちを受け止めましょう

ご本人にとっては、どんなことも“事実”です。例えば「財布を盗まれた」などと言った時に無理に訂正したり否定したりすると、更に不安や興奮が強くなる場合があります。まずは「心配だったんですね」「一緒に探してみましょう」など、ご本人の気持ちを受け止めることが大切です。

BPSDは「困った行動」ではなく、ご本人の不安や混乱のサインです。

認知機能障害によって「できない」「わからない」ことが増えると、不安や戸惑いが強くなり、さまざまな行動・心理症状が現れることがあります。症状だけを見るのではなく、その背景にある気持ちや環境にも目を向けることが大切です。

一方で、ご家族だけで対応し続けることは大きな負担になることもあります。BPSDは、接し方を工夫したり、お薬による治療や介護サービスを利用したりすることで改善する場合があります。

「少し大変になってきたな」と感じたら、一人で抱え込まず、早めにご相談ください。

もりやま総合心療病院 認知症疾患医療センター

☎ 052-795-3560

平日：9：00 ～ 16：00 土曜日：9：00～12：00

